ふくしきらり人。

吉田（よしだ）　斉（ひとし）さん

社会福祉法人　征峯会　特別養護老人ホームしらとり

今回のふくし“きらり人。”は、筑西市にある特別養護老人ホームしらとりで、次長兼介護支援専門員としてやりがいのある日々を送る吉田斉さんにご登場いただきました。吉田さんは取手市（旧藤代町）の出身、水戸市の大学で福祉を学び、卒業した平成17年に社会福祉法人征峯会に入職。障がい者施設の運営が主だった同法人がその年に、高齢者施設の運営をスタートさせ、介護の仕事は未経験だったという吉田さんは、特別養護老人ホームとデイサービスの現場を７年ほど経験し、地域包括支援センターで２年経験しました。相談員の仕事や福祉の仕事の魅力、今後の目標をお聞きしました。

きっかけは、祖父が大好きだったから

吉田さんが福祉の道に進んだのは、高校卒業後の進路を決める際に「大好きな祖父のために何かできないか」と思ったことが、きっかけだったそうです。福祉の道を歩み始めた吉田さんですが、「社会人になって３年目に祖父は亡くなり、世話をしてあげられなかったので、祖父の分まで利用者さんに尽くしたいと思っています」とのこと。学生時代に実習に行ったのは障がい者施設で、高齢者施設の現場は未経験のまま飛び込んだ吉田さん。「普通に生活していると見えにくい仕事ですが、実際に働き始めると、まず第一にいろいろな人がいることに気づきました。認知症状も人それぞれ、身体の状態も人それぞれ、どこからどうやって手をつけたらいいかもわからず、周りの人に教わりながら、少しずつ取り組んでいきました」と、新人時代を振り返ります。当時、現場でやりがいを感じたのは、「入居者やデイサービスの利用者さん

福祉は人と人、いろんなご縁があってつながれる仕事。

に感謝され、喜んでもらえた時」とのことです。

いろんな人と“つながれる”ことが福祉の仕事の魅力

現在の仕事は、入居者支援のベースとなるケアプランの作成を主に担当していますが、生活相談員としての役割もあり、入居者の家族からの相談を受けたり、入居を希望する人への対応など様々です。「相談には、急に家族の介護を必要とし、どうしたらいいのかわからない状況で来るので、その時にアドバイスすることでほっとしてもらえるとうれしいです」。それぞれの家族の悩みに合った解決策を提案し役に立つことが、現在のやりがいになっているそうです。吉田さんにとって福祉の仕事の魅力は、「いろんなご縁があって人と人が、“つながれる”のはこの仕事ならでは。私自身人が好きで、いろんな人と“つながれる”ことに喜びを感じます。そうしたつながりをどんどん広げられることも、福祉の仕事の魅力です」と話してくれました。

ネットワークを広げ、仲間を増やしていきたい

今後の目標は、「人と人とのネットワークをさらに広げていくことです。それによって自分も成長できるし、相手の役に立つこともできます」という吉田さん。平成 30 年から地域包括支援センターの仕事に関わったことが、同業者と交流する機会があり良い経験になったそうです。また、同施設は、個室と共同生活室で構成されるユニット単位で、高齢者の個別ケアを実現するユニットケアが特色です。一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会の勉強会にも参加し、情報交換を行っています。「それぞれの施設の特色を生かし、自分たちにできることを試行錯誤しながら取り組んでいることはとても刺激になります。例えば、家で使っていた食器を持ってきてもらって、なじみの食器で食事をする試みがありました。認知症の人でも自分のものだと認識ができ、食事を楽しんでもらえると聞いて、これはいいなと思い取り入れました」。全国にユニットケアの仲間を増やしていくことも目標です。

人が好きなことがまず第一条件

福祉の仕事はどういう人に向いているかをたずねると、「人が好きなことがまず第一条件、この人のために何をしたらもっと良くなるのかを考えて行動することが、良い支援につながるので、人が好きであってほしい。年齢はあまり関係ありません。中途で入職した人も、今までの経験や価値観が生かされることがきっとあります」という答えでした。福祉の仕事を検討中の方は、「人と人とがつながれる本当に魅力的な職場だと思います。一人で仕事をすることがあまりなく、チームで関わっていけることが強みです。誰かがサポートしてくれる環境があるので、不安なくやっていけます」というメッセージをいただきました。「福祉は人として成長していける職場であることを伝えたい」と言う「きらり人。」の吉田さんです。